

1

滋賀県で働く魅力について教えてください。

滋賀県は、県内に大都市はありませんが、中都市が満遍なく散在し、どの地方で勤務しても、生活の利便性が確保されています。また大阪・京都などの大都市へのアクセスも良好です。加えて、日本有数の豊富な文化財や、琵琶湖をはじめとする風光と、様々な魅力があり、居住地として恵まれています。

そして県内を飲み歩いての肌感覚での印象論ですが、医学生や医師をあたたかく迎えてくれる方が多く、どの土地でも非常に歓迎され、面白がられ、大切にされました。

恵まれた環境で、あたたかく歓迎されて仕事をできることが滋賀県で働く魅力と考えます。

2

現在の診療科に決めた理由をおしえてください。

滋賀医大の皮膚科は、診療の幅の非常に広い科です。皮膚科としては全国的にも珍しく手術を行っているほか、滋賀医大に膠原病内科が存在しないこともあり、かなり多くの膠原病の症例も皮膚科で診療しています。このような広い診療科であれば、しっかりと自分の適性を見極めつつ、本当に自分に合った適所・専門領域を見つけ、成長していけるだろうと考え、皮膚科に決めました。

3

ご自身のキャリアプランと地域枠従事要件の兼ね合いで難しいと感じることはありましたか。

ありました。皮膚科といういわゆるマイナー科を選んだため、専門医取得に向けての研修可能な病院に限られており、県知事による指定により専門医取得が遅れるのではないかと不安がありました。この不安に関しては、毎年行われる面談で、医局と相談の上で指定先を決めるので、知事による指定は専門医取得を妨げるようなものとはならないとのお返答を頂いており、現在は解消しています。

4

これまでのご自身のキャリアで印象に残っていることはありますか？

キャリアで印象に残っていることとしては、研修医2年目の時に、研修医1年目の後輩から、居てくれると安心できると言われたことがあります。いつまでたっても技術や知識、判断力が向上している気がせず、自分は1年上の先輩方の1年前に見せてくれた姿に遠く及ばないと思いつつも、自分自身では実感できなくても、後輩から多少は頼りに思ってもらえる程度には進歩していたのだと、少し心が軽くなりました。

5

これからの地域枠学生にメッセージをお願いします。

滋賀県は生活環境として魅力的で、交通その他の利便性も高いです。一方で未だ医師が不足しています。しかも人口は増加傾向にあり、医師が必要とされる度合いの高い働き甲斐のある土地であると思います。地域枠に満足している方にとっては、言うまでもなく良い土地ですが、地域枠に入り進路選択の幅を狭めてしまったことで、悩んでいる方にとっても、働く場として、かなり良い選択になれる土地ではないかと思っています。

滋賀県が私のみならず、皆さんにとって、良い働く場となり、協力して働ける日を、心待ちにしています。



B 先生 <精神科/滋賀県医師養成奨学金>

義務年限	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
研修先	初期研修	専門研修	専門研修	専門研修	専門研修/知事指定	未定	未定	未定	未定
	滋賀医科大学 医学部附属病院	滋賀医大 附属病院	滋賀医大 附属病院	滋賀医大 附属病院	滋賀医大 / 精医セ※	未定	未定	未定	未定

※滋賀県立精神医療センター

精神科専門研修プログラム登録 → 精神科専門医取得 → 精神保健指定医取得 → 義務終了予定

1

滋賀県で働く魅力について教えてください。

滋賀県で働く魅力は数多くありますが、特に私が実感することとして、①滋賀県の医師需要の高さと、②滋賀県という土地の素晴らしさが挙げられるかと思っています。

①について、滋賀県は全国的に人口増減率や出生率の高さが特徴で、あらゆる診療科で医師の需要が高い県であることは学生の時から聞き知っていましたが、このことは、実際に医師になるとより実感できるように思います。お役に立てている、必要としていただいているというやりがいを日々感じながら仕事に取り組むことができます。仕事の中では大変なこともあると思いますが、このことは大きな励みになってくれることと思います。

②について、私自身、県外の様々なところに住んだ後滋賀県に戻ってみると、美しい自然と生活に便利な環境の両方が揃った大変住みやすい環境だと改めて感じます。滋賀県で働くことは、他者貢献と自己啓発の両面において魅力にあふれていると思います。

2

地域医療のやりがいや得たもの、また経験して特に印象に残ったことは何ですか。

滋賀県の研修指定病院はいずれもその地域にとって欠くことのできないセーフティーネットともいえるものであり、周辺の広い地域から患者さんがお見えになります。そのような大切なセーフティーネットの命綱の一本になれるかもしれないという思いを抱きながら働けることは、この上ないやりがいだと思います。

3

ご自身のキャリアプランと地域枠従事要件の兼ね合いで難しいと感じることはありましたか。

自身のキャリアプランを考える上で、地域枠従事要件が障害になるのではないかと心配される方もいるかもしれませんが、しかし、私の場合、まだはっきりとした長期的なキャリアプランは決まっていませんが、どのようなキャリアプランになるとしても、地域枠従事要件がその障害になるとは考えていません。私の義務年限は9年ですが、医師になって最初の9年間はいわば駆け出しの時期であり、さらに先の将来を見据えて、医師としての能力の涵養を第一に考えるべき時期だと思います。その点において滋賀県は、上記のように、研鑽を積む上で非常に恵まれた環境であり、滋賀県の地域枠で働くことは、その後のキャリアプランがどのようなものであってもプラスになると思うからです。

4

これまでのご自身のキャリアで印象に残っていることはありますか？

精神的な不調から多彩な症状をきたし内科的な検査ではっきりとした異常が見つからないことはしばしばあります。多彩な症状で長くつらい思いをされ、様々な診療科で十分な改善の実感を得られなかった方が、精神科の受診を通して症状の改善や、人生の質の向上を得られ、さらには、新たな生きがいや価値観を見出していらっしゃる様子を目の当たりにし、少しでもそのお手伝いできたかなと感じられる時があり、大変印象に残る瞬間です。

5

これからの地域枠学生にメッセージをお願いします。

滋賀県の地域枠の医師と一言でいってもバラエティに富んだ病院があり、私が選んだプログラムもその中の一つに過ぎないのですが、私が個人的に断言できることは、滋賀県の地域枠を選んだことは本当に良い選択だったということです。滋賀県の病院はどれも懇切丁寧に指導いただける充実した研修プログラムが用意されていることは有名です。滋賀県の地域枠での勤務は、研修医や専攻医など医師として駆け出しの時期を乗り切れるものにするためにも、将来を見据え、来るべき高齢化社会や地域間の医師偏在といった問題の中でも必要とされる医師としての力をつけるためにも、この上なく素晴らしい環境であると考えます。



C 先生 < 糖尿病内分泌内科 / 滋賀県医師養成奨学金 (学士) >

義務年限	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
	初期研修		専門研修	専門研修	専門研修	専門研修 / 知事指定	
研修先	滋賀医科大学 医学部附属病院		滋賀医大 附属病院	済生会滋 賀県病院	未定	未定	未定
	内科専門研修プログラム登録					義務終了予定	

1

滋賀県で働く魅力について教えてください。

もともと愛知県の出身で滋賀医科大学へ編入するまでは失礼ながら滋賀県について「琵琶湖」がある以外あまり知りませんでした。月日はあっという間に経過して学生から含めると滋賀県で人生の4分の1以上を過ごしています。

滋賀県で働いていて最も良かったと思えるのは学生や研修を共にした同期や尊敬できる滋賀医大出身の医師が身近に多くおられ、様々な面で相談しやすいという点です。診療面だけでなく、医師のキャリアには選択していく場面も多いためその都度悩まされることがあります。ネットの情報も多様でどれを信じて良いのか分からないこともあり、信頼できる方々が身近におられるのは非常に心強く感じます。

2

現在の診療科に決めた理由をおしえてください。

現在の診療科である糖尿病内分泌内科にしようと思ったのは研修医2年目の頃でした。学生の頃から内科に興味をもっておりましたが、内科の中で興味を持っていたのは現在の診療科ではありませんでした。学生の時はクリクラはあるものの講義のイメージが強く、紙ベースで興味深い科と実際に働いて自分に合っていると思う科は異なることも多いかもしれません。自分は今の科を実際に研修して偶然に珍しい疾患に出会えたこと、そして教育熱心な先生と偶然出会えたこと、こういった偶然も重なりその科にしよう決めました。糖尿病内分泌内科医としては2年目ですが、これまでのところ選んで良かったという気持ちです。

3

地域の市中病院と大学病院や地域中核病院とでの研修や、働くにあたっての勤務環境の違いはありますか。

初期研修から後期研修1年目は滋賀医科大学医学部附属病院、後期研修2年目からは済生会滋賀県病院で働いています。両者の研修医と共に診療してきましたが、どちらの病院でも熱心に診療に取り組む方もいればそうでない方もいます。必ずしも研修病院の選択で能力に差がでるわけではないと感じています。ただし、市中病院では感染症を中心とするcommon diseaseの症例を多く経験でき、大学病院では専門とする医師の下で1症例1症例丁寧に診療できる印象があります。また、内科専攻医の研修には初期研修の症例を半数使用できるため可能であれば初期研修と同じ病院で専攻医になれば症例登録が行いやすいです。

4

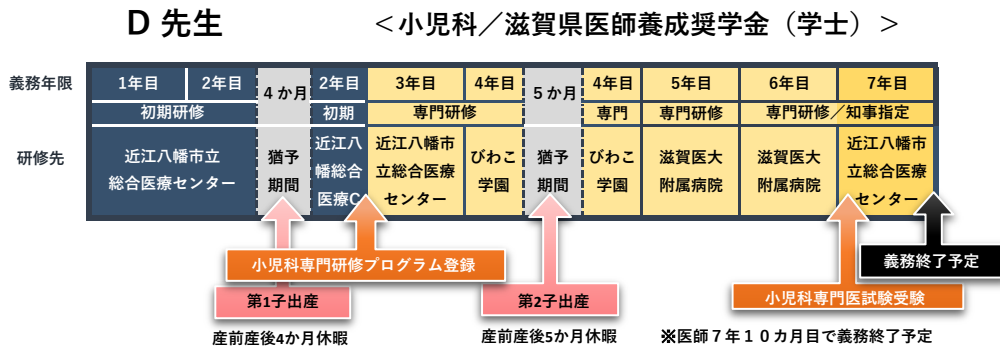
ご自身のキャリアプランと地域枠従事要件の兼ね合いで難しいと感じることはありましたか。

糖尿病内分泌内科は糖尿病というcommon diseaseと内分泌疾患という比較的珍しい疾患（甲状腺疾患除く）の診療を行っています。内分泌疾患については専門施設が滋賀県下に少なく、現在従事している済生会滋賀県病院も内分泌疾患の研修施設ではありませんでした。専門施設でなければ専門医研修期間として認められませんが、本年度より滋賀医大病院の連携施設にして頂き研修施設として認められました。その結果、1ヵ月に1回程度、滋賀医大のカンファレンスにも参加させて頂き市中病院で働きながら貴重な珍しい症例も学ぶことができています。

5

これからの地域枠学生にメッセージをお願いします。

稚拙な文章を読んで頂きありがとうございます。少しでも参考になる部分があれば幸いです。自分も医師4年目でまだまだ今後どのようなキャリアを選択するのかわかりませんが、学生のときには今以上に自分が何をやりたいか、地域枠の中でどのような進路を辿っていくのかわかりませんでした。そういった方々も多いと思われそうですが、気になることが出てきた際には適宜滋賀県医師キャリアサポートセンター等に相談して解決していきましょう。今後、一緒に働くことがあればよろしく願いいたします！！



1

滋賀県で働く魅力について教えてください。

私は学士編入学で、30歳で医師になったこともあり、子育てと両立しながら、より良い環境で学べる機会を求めています。滋賀県はほどよく田舎で、保育園も比較的入りやすく、子育て環境、住環境にも恵まれています。また、滋賀医科大学やその関連病院も女性医師のキャリアサポートに積極的で、産前、産後も働きやすい環境がありました。

2

現在の診療科に決めた理由をおしえてください。

学生時代から小児科に興味がありました。生まれた瞬間からその成長を見守っていける。子どもというかけがえない可愛い存在とその家族における、時には苦しみもありますが、同時にたくさんの幸せにも寄り添えるのが小児科だと感じ、迷うことなく専攻しました。仕事では大変なことで、しんどいことも多々ありますが、それ以上に、出会う患者さんひとりひとりに個性があり、症例も多岐にわたるため学ぶことが多く、常に新しい気持ちで勉強しながら日々を過ごしています。小児科を選んで後悔したことは一度もありません。

3

地域の市中病院と大学病院や地域中核病院とでの研修や、働くにあたっての勤務環境の違いはありますか。

地域の市中病院と大学病院では求められる役割が異なります。小児科で言うと、市中病院は元気な子どもの風邪診療、睡眠や夜尿などの生活習慣の相談から、突然発症した希少疾患、新生児治療まで、子どもの総合診療医としての役割が幅広く求められます。その分、勤務も外来、病棟管理、救急、NICUと同時に関与するため、研修でも広く学ぶことができ、一般的知識に加え、度胸や応用力を鍛えることができます。

大学病院は、地域では診ることが難しい重症患者を診る病院で、小児腫瘍、腎疾患、代謝疾患、神経疾患と系統立てて、深く学ぶことができます。どちらで働いていても、担当患者の容体次第で忙しい時期は非常に忙しく、夜も呼ばれることもありますが、自分次第で働き方の調整は可能です。

4

ご自身のキャリアプランと地域卒従事要件の兼ね合いで難しいと感じることはありましたか。

私は元々、国際保健医療に関わりたいと考えて医師になりました。将来的に、いつかはその道に行きたいと考えていますが、いずれにせよ、医師としての基礎ができる10年間は臨床を頑張りたいという思いがあり、その研鑽の場として滋賀県は申し分ないと考えています。地域卒従事要件の年限は滋賀で働き、その後、ステップアップを図る場合に一時的に滋賀県を離れることがあっても、また帰る場所があるのは心強いと考えています。また、地域医療従事要件で産休、育休も認められていたため、安心して産休、育休を2回取得することができました。

5

これからの地域卒学生にメッセージをお願いします。

学生時代は、都会の有名病院や地方でも研修医が多く集まる病院に魅力を感じた時期もありました。しかし、私が滋賀で出会い、教えを受けた先生方は皆、その道のエキスパートで一生の師匠と思える先生との出会いもありました。自分次第でいくらでも成長できる素地が滋賀にはあると思います。

皆様が私たちの仲間になってくださる日を心待ちにしています。

